



# ノハナショウブの群生を発見！

## ☆氷河期の生き残りで、ハナショウブの原種☆

山岳会会長の小泉さんと出戸地区にある土塁調査に6月29日に行ってきました。出戸地区の高台に、本来は湿地帯に咲く「ノハナショウブの群生」に出会うことができました。



### ノハナショウブ

ノハナショウブは、ハナショウブの原種で、湿った牧草地の周辺に群生していました。有毒であるために、牛馬に食べられないで繁茂していました。日本の稲作地帯に自生していたようで、青森県や北海道では、まだ群生が見られるようです。

六ヶ所村や出戸地区のノハナショウブは、濃紅紫色で、性質も丈夫な系統のようです。出戸地区のノハナショウブは、草丈は1m位で、沼などの低湿地ではなく丘の上にあり、粘土質の土壌が生育に適している、このように大型化しているのではないかと思います。今回は、土塁調査で見つけた群生でしたので、個体変異は少ないようですが、じっくりと調べ、新たな品種を育ててみたいもので、新品種「出戸の女神」が生まれるかもしれません。

